【談話】

民意を切り捨てる衆議院議員比例定数削減法案提出に反対する

2026 年１１月１１日
全国保険医団体連合会
会長　竹田　智雄

10 月 29 日、自民党、日本維新の会、国民民主党の３党は、衆議院の比例代表のみの議席を 31 議席削減する案について正式合意し、今国会での関連法案の提出・成立をめざして協議を進めており、週末にも法案が提出されようとしています。

もともと比例代表は、政党の得票数に応じて議席を配分するため、民意を議席に反映できるものです。小選挙区制度では、死票が多いため、多様な民意を反映するために比例区が設けられてきました。

そもそも、日本の人口あたりの国会議員数は、主要先進国と比べても特に多い水準ではなく、ＯＥＣＤ加盟国 38 か国中、36 番目と少ない方から数えた方が早いという状況です。安易に議席数を減らすことが国会の機能強化や民意の反映につながらないことは明らかです。

とりわけ、比例区のみの削減は、少数意見や弱者の切り捨てにつながるものです。

定数削減は、民主主義の土台である選挙制度の問題です。国民的議論が不十分なまま数の力による早期成立は許されません。

拙速な法案提出はやめて、十分な議論を行うことを求めます。